

はつうま通信

2025年 6月23日 発行

はじめに

梅雨入り宣言後の真夏のような暑さに、冬の豪雪のことはすっかり忘れてしまいましたが、自然はやっぱり正直で。雪解けからのスタートが遅かった分、昨年はこの時期に盛りを迎えていた桑の実が、ようやく甘そうに色づき始め、子どもたちの帰り道のおやつになり始めました。

センターの野良仕事も本格的にスタートしています。まだ霜が降りそうな時期から種から大切に育ててきた野菜の苗は、無事に畑に定植されました。慣れない鍬をもって耕し、曇天の肌寒い中、全身泥まみれになって代掻きした田んぼにも、丁寧に苗が植えられ、今日も気持ちよい風が田んぼの水面を揺らしています。今であればショートカットできてしまう作業を、こうやって一つ一つ手作業で行っていくことは、子どもたちの根気強さを育てていくことになるのだろうか、と思いながら見守っています。

6月1日の山開きにあわせて行った金剛堂山登山はあいにくの雨模様で、山には霞がかかり寒い日でした。その中でも、子どもたちは一人も欠けることなく山頂にたどり着き、ゴールの東俣登山口までたどり着いたと聞きました。これも、彼らの根気強さと成長を感じた出来事でした。

そんな1学期も残すところあとひと月。利賀での生活により慣れ、少しずつ生活にも余裕が出てきた留学生には、初夏の利賀を存分に楽しんでほしいと思っています。そして、夏野菜や利賀の自然のこと、どんなことでも構いません。ぜひ、地域の皆さまにも、留学生を見かけたら声をかけていただけると幸いです。

須河 紗也子



代かき完了！



地元生と一緒に
キャンプへ

【活動日程】

- 5/25 保護者来園行事
- 5/26 代かき
- 6/1 金剛堂山山開き
- 6/3 ホームステイ開始
- 6/7 週末コース①(～8日)
- 6/13 センター活動開始
- 6/14 こーりゃく隊研修①
(～15日)
- 6/16 田植え
- 6/18 通学合宿(～22日)
- 6/21 キャンプ(～22日)

5/25 親子山菜採り



留学生の保護者の方々が来園し、親子で一緒に山菜採りの活動を行いました。坂上地区と千束地区に分かれ、鎌とかごを持って山に入ります。地域の方に案内していただき、ウド、コシアブラ、タラの芽、ススタケなど、多種多様な山菜を発見し、採集しました。中には、「あ、〇〇だ!」といち早く山菜を発見し、斜面を駆け上がって取りに行く姿もあり、これまでの留學生活の成果を十分に発揮していました。センターに帰園後は、採ってきた山菜を全員で調理。天ぷらやきんぴらなど、鮮やかなメニューが並び、うどんと一緒に美味しくいただきました。

6/1 金剛堂山山開き

利賀の名峰：金剛堂山の山開きに合わせ、登山を行いました。今回は地元生4名と保護者の方2名も一緒に登ります。まずは山開きの神事に出席し、登山の無事を祈りました。あいにくの雨の中、栃谷登山口を出発！しりとりをしながら登山道を登っていきます。行動食を食べてエネルギーを蓄え、残雪を越えていよいよ山頂に到着。雲の中で何も見えませんでした。寒さに打ち勝とうとみんなで大合唱していました。

休憩を終え、東俣登山口を目指して下山しました。笹藪を掻き分けながらの下山となりましたが、無事に登山口まで降りてきました。ハードな活動でしたが、「晴れている時にまた登りたい!」と、新しい目標を語る姿もありました。



みらい留学農事歴

田 5/26 代かき 6/16 田植え 5/23(有志)草取り

【田んぼ】今月の田の作業は、5月26日に「代かき」、6月16日に「田植え」がメインの作業となりました。代かきでは、2グループに分かれて「1、2、3、4、5...!!」と声を出しながら、1時間半ほど田んぼの土を踏んでいきました。作業後には、恒例の「どろんこ運動会」を行い、「田んぼフラッグ」や「リレー」を楽しみました。その後地域の方に機械で植え代を掻いていただき、田植えの日を迎えました。午前中は最上級生による筋付け作業をし、午後に全員で田植えをしていきました。暑い中での作業となりましたが、植え付けが甘かったり、植え忘れがあったりすることなく、短い時間で作業を終えることが出来ました。これからは、雑草との闘い。できる限り時間を見つけて草取りをしていきたいと思います。

畑 6/2(前)定植 6/9(有志)畝立.定植 6/16 畝立.定植.播種

【畑】自分たちで育てたトウモロコシやカボチャ、きゅうりなどの苗を植えました。また、6月半ばには平鍬を使って畝を立て、トマトやピーマン、ナスなどの夏野菜を植えたほか、インゲンなどの種をまきました。時季が遅くなりましたが、ジャガイモも植え付けました。前期生が空いた時間を使って作業しましたが、後期生も全員が揃って作業した日には一気に作業が進みました。ようやく畑らしい姿になってきた今年の畑です。

こーりやく隊研修①

南砺利賀みらい留学の活動を支えるボランティア組織「こーりやく隊」の活動スキル向上や懇親を目的に、研修行事を行いました。今回の研修テーマは「キャンプ指導について。」で、山村留学を修園した高校生2名が参加をしてくれました。当日はあいにくの天候で、雨が降りしきる中でしたが、センター内で私たちの目指すキャンプ活動のありかたについて学んだあと、実地にてキャンプ活動を行いました。今後も、こうした活動を通して、利賀を離れた修園生やボランティアの方々が、より利賀を身近に感じられる機会となることを願っています。

週末コース① キャンプ・よもぎ餅つき

1泊2日で開催される短期の週末コースを行いました。今回は初夏の利賀を楽しむキャンプ活動とヨモギ餅づくりで、17名の子どもたちが集まりました。お弁当を食べると、早速水遊びです。その後キャンプ場に移動し、火を準備して調理を始めます。どの班も無事にカレーライスが完成し、それぞれ自分たちで作った味を楽しんでいました。その後、希望者は夜の散歩をして、1日目は終了。



翌日はセンターに戻り、虫探しや竹細工、釣りなどに分かれて楽しみました。昼ごはんは、全員でついた出来立てのお餅です。お昼を食べ、解散式をしたあとも、時間ギリギリまで鬼ごっこや缶蹴りなどを続け、遊びきりました。

6/18~22 通学合宿



地元の子どもたちを迎えて一緒に生活する通学合宿を行いました。今回は1年生から9年生までの11名の参加です。夕食の配膳、掃除などの日常生活を協力して過ごしました。それだけでなく太鼓やキャンプの活動も一緒に行います。普段は年少として生活している留学生が教える立場になったり、新入園生は経験者から太鼓を教えてもらったりと刺激を受けることが出来ました。地元生も起床時間が早く、するべきことが多い集団生活を楽しんでくれたようです。解散式では通学合宿の感想と太鼓の演目を発表しました。

6/21 テント泊キャンプ



デイキャンプに続き、2回目のキャンプを行いました。通学合宿に参加してくれた地元の子も一緒に、今回はロンレー子ども村でのテント泊キャンプです。テントを設営後、グループごとに薪を集め、かまどを作り、夕食を作りました。カレーライスやシチュー、ハヤシライスを作り上げ、実食です。「僕の班が一番おいしい！」と自慢する声があちこちから聞こえてきました。その後は、残った焚火を眺めながらスモアを食べたり、ライトをつけずにナイトハイクに行ったりして、キャンプの夜を満喫しました。

「おいしかったシチュー」 ぼくは、キャンプで、子どもたちだけで作るのが、初めてで、ふあんでした。ぼくのはんは、シチューを作る予定で、にんじんやウィンナー、じゃがいも、たまねぎを入れました。ぼくは、まきを入れることしかできなくて、そんなにやくにたてなかったの次はやくにたてるようにしたいです。でもシチューはとてもおいしくてうれしかったです。(ひびき)



「初めてで最高のキャンプ！」僕は今回の通学合宿で初めての一泊のキャンプに挑戦しました。僕はこのキャンプをすごく楽しみに思っていたんですが、同時にとても緊張していました。なぜなら、僕の班では僕が最年長だったからです。僕はキャンプの経験がないこともなおさら不安でした。ですが僕の班の「火おこしのさとし」と「なたのせいじゅん」が僕を支えてくれました。二人は経験も知識もあってとても頼りになりました。その結果おいしいカレーを作ることができました。みんなに、「うちのごはんは最高だから！」と自慢しましたがあまりおいしくなかったことは僕の班だけの秘密にしておこうと思います。いろいろ大変なこともありましたが、僕の中では最高のキャンプになりました。(よしき)

6/1(日) 雨 気温: 12℃ 【トラツグミ】

- ・夜になると、「ヒョーッ、ヒョーッ」と鳴く鳥。不気味な鳴き声だったことから、昔は鵺(又工)という妖怪だと思われていた。

保護者だより

むかしむかし、とまでは言いませんが、いおりという男の子が、ちょっと都会のにぎやかな場所に暮らしておりました。

いおりは、一人っ子。家の近くには祖父母もいて、可愛がられて育ちました。けれど本人は意外としっかり者で、素直で前向き。何にでも「やってみたい!」と飛びつくタイプ。まあ、その熱意が時々すべって、友達に「ちょっと待って…」と引かれることもありますが、悪気はないのです。ただ、元気がすこし余ってるだけ。

彼が、雪深い利賀の山に行きたいと言い出したのは、体験留学での出来事がきっかけ。雪に埋もれた風景にテンション爆上がり。「ここでスキーを思いっきりやりたい!」と目をキラキラさせる姿に、親としても「これは……本気だな」と。送り出したのでした。

スキーはもちろん、自然の中で過ごす日々や、少人数の学校、異年齢の仲間たちとの生活。それって、今の時代には逆に“贅沢な経験”かも。

正直親として寂しくなるもんなのかな?と思ったのですが、不思議なもので、距離ができることで見えてくることもありました。いおりの姿をブログや「はつうま通信」で見つけるたびに、「ああ、今日もちゃんと“今”を生きてるな」と思えて、親の方が励まされる始末。

人と関わるって、面倒で、ありがたくて、ちょっとしんどくて、でもかけがえのないことです。利賀での暮らしの中で、いおりには「人と生きる」ってどういうことかを、肌で感じて帰ってきてほしいなあ、と思っています。

関わってくださる全ての皆さんに、親子ともども感謝しながら、一年間楽しく生活できればと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

=====

指導員よもやま話

=====



第1期の頃から子ども達の散髪に多大なる貢献をしてくれていたマイバリカンが最近不調です。髪を刈る時に、「痛い!」「引っかかっている。」と言われることが増えました。バリカンよ、これまでみんなの身だしなみをサポートしてくれてありがとう。(邑上)



代かきで跳ねた泥が落ちなくなった白いTシャツを、ベンガラ染めで染めてみました。跡はうっすら残りつつ、でも良い感じのグレーになってプチ満足。なかなか手軽なので、子どもたちとも染めてみたい。あせた手ぬぐいとか、汚くなった靴下とか?(松浦)



鉱石採集趣味が再燃。フリマサイトで「利賀村産サファイア」を見かけた時からその産地の谷を探していたが、先日ついに発見することができた。次の目標は、利賀の民話に伝わる金山探し。情報はごくわずか、探検家としての腕の見せ所。(山口)



父が気になっているらしいパタパタ茶を父の日に郵送した。家族が富山に来ることがあれば朝日町で由来となった特徴的な飲み方を体験したいとひそかに計画している。今後は利賀だけでなく、南砺市や富山県の文化にも触れていきたい。(高倉)